

**県内で牛の異常産を起こすチュウザンウイルスの抗体が
確認されましたのでご注意ください！**



平成29年度に実施された国のサーベイランス検査において、**9月と11月**に、**愛知県内でのチュウザンウイルス抗体陽転が確認**され、**県内へのウイルス侵入の可能性が示唆**されましたので、**ご注意ください**。**東部家保の管内でも確認されています（豊橋市、田原市、新城市）**。近隣県の三重、岐阜、静岡では抗体の動きは認められていません。なお、各種異常産ウイルスの陽転状況については、下記のHPでもご覧になれますので、**ご参照下さい**。

<http://www.naro.affrc.go.jp/niah/arbo/index.html>

チュウザンウイルス

ヌカカが媒介して異常産を引き起こすチュウザン病の原因ウイルスです。国内では過去5年間、チュウザン病の発生報告はありませんが、感染抗体は過去に各地で検出されています。

予防は混合不活化ワクチン接種が有効です（3種、4種）

※1：4種には近年九州・沖縄を中心に流行しているピートンウイルスが含まれています（2017年には兵庫、岡山でも確認されています）

※2：ヌカカが発生する1か月前（4～6月）には接種を終えて下さい

夏～秋にかけて
妊娠牛が感染



冬～春にかけて異常産
（運動障害、神経症状）

【写真】異常産子牛：奇形等はないが、起立困難、後弓反張（神経症状）を示す。

